

一宮町長  
馬淵 昌也

最近、防災無線や広報6月号でもお知らせしていますが、通学時の小学生・中学生への不審者によるつきまとい・車での追いかげや、猫の死骸の遺棄といった、不穏な事案が多数発生し、町の皆さまに不安をさしあげることになりました。これは、新潟での凶悪な事件に触発されたのか、その事件の前後から増えたものですか。

私は、当初から事態を重く見て、教育委員会はじめ役場全体に、最善の策を講ずるようお願いしました。世間では、予兆の段階では本格的に対応せず、最悪の事態が発生してから対策をとりはじめるといふ、感度の鈍さがよくみられます。子供さんの安全を守りするのは、自治体にとって最大の使命のひとつですが、自治体の対応は後手に回ることがよくあります。私は、最善の策を事前に講じて事件の発生を未然に防ぎべきだという考えのもと、対応を摸索しました。

対策の立案においては、以下の方針で参りました。①一人も絶対に危険にさらされないことを100点として目指す。②100点をとるための手段を考える。③現状は、何点くらいかを計る。④100点を目指し、現在とのギャップをどう埋めるかを考えて実行

する。

今までこうやってきたから、こうする、というレベルの対応ではいけません。今までやっていた方法は、どれくらい有効なのか、改めて測りなおすべきです。そして、完璧でないことすれば、完璧に近づける努力をしなくてはなりません。

その結果、教育課の諸君のリードと先生方の努力で、1000人を超える児童生徒さんそれぞれの住まいと通学ルートを正確に把握いたしました。その上で、危険な場所を地域の方に細かく指摘頂き、学校・役場・警察・交通安全協会他の協力体制をもとに、PTA・地域の方々にも、危険箇所を下校時中心に見守って頂くという安全対策の柱が確立しました。子供さんの安全確保の件では、今後更に幅広く町の皆さまにご協力をお願いして参りますが、まずはこれまでお力添え頂いた皆さまに御礼申し上げます。

今後、町の危機管理の方針は、分野はなんであれ、常にここに記した方針に従い、確実に効力を発揮できるものにすることをお約束いたします。皆様の変わらぬお力添えをお願い致します。